資料2

報告2

市民アンケートの結果について

1. 調査概要

(1)調査目的

- 「宮崎市地域公共交通計画」の策定に向けて、市民の移動実態、公共交通の利用状況や満足度、改善すべき点、将来の意向等の把握を目的に実施。

(2)基本内容

項　目	内　容
調査対象者	住民基本台帳データより宮崎市在住の16歳以上3,000名を無作為抽出
配布・回答方法	配布方法：郵送　　回答方法：郵送またはWEB
アンケート発送日	令和6年5月20日（月）　※令和6年6月10日(月)全対象者へ勧奨はがき発送
回答期限	令和6年6月21日（金）
回答状況	回答票数：1,194名（内訳：郵送564名、WEB630名） 回 答 率：39.8%

- 住民基本台帳（令和6年3月1日現在）に基づく人口割合及び年齢割合で各地区の対象者数を設定。

自治区名	中央東	中央西	小戸	大宮	東大宮	大淀	大塚	檍	大塚台	生目台	小松台	赤江	本郷	木花	青島	住吉	生目	北	佐土原	田野	高岡	清武
対象者数	211	152	84	186	115	178	151	315	44	51	42	261	155	90	27	159	95	50	250	84	79	221
回答票数	150	61	16	67	46	92	69	77	20	23	29	64	74	32	7	57	33	22	90	36	32	97
回答率	71%	40%	19%	36%	40%	52%	46%	24%	45%	45%	69%	25%	48%	36%	26%	36%	35%	44%	36%	43%	41%	44%

（3）調査票（7枚構成の1，2枚目）

宮崎市　公共交通に関するアンケート調査

調査協力のお願い

日頃から、宮崎市の交通行政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

本市では、鉄道、バス、コミュニティ交通、タクシーなどの様々な交通手段が一体となり、誰もが利用しやすい持続可能な公共交通ネットワークの再構築を目指し、「宮崎市地域公共交通計画」の策定を進めています。

そこで、この計画策定にあたり、市民のみなさまの移動実態、公共交通の利用状況や満足度、改善すべき点、将来の意向等をお聞かせいただきたく、アンケート調査を実施いたします。

今回の調査は、本市にお住まいの 16 歳以上の方から、住民基本台帳データより無作為に**3,000 人を選出**させていただきました。

皆様方におかれましては、お忙しいところ誠に恐縮でございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和6年5月吉日
宮　崎　市

回答方法　**本市では、「宮崎市デジタルチャレンジ宣言」を宣言し、DX 推進に取組んでいます。可能な限り、オンラインによる回答(目安 10~15 分)にご協力をお願いします。**

①《オンライン回答》　右 QR コード→を読み取っていただくか、URL（https://[redacted]）からご回答ください。　QR

②《郵送回答》　記入後、調査票を同封の返信用封筒に入れて、投函してください。
※切手貼付や封筒への氏名記入は不要です。

回答期限

令和 6 年 6 月 21 日（金）まで　にご回答をお願いします。

ご記入にあたってのお願い

＊ ご回答いただいた内容は、統計的な分析のみに使用し、それ以外の目的で利用することはありません。また、**お名前を記入いただく必要はありません**ので、回答者が特定されることもありません。

＊ **あて名となっているご本人**がご回答ください。

＊ 体調不良や入院・施設入所等のご事情により、ご本人による**回答が難しい場合は、無理にご回答いただく必要はありません**。その場合、宮崎市への連絡は不要です。

調査についてのお問い合わせは下記までお願いします。
宮崎市 企画政策課 交通物流政策室　TEL:0985-40-1961
FAX:0985-29-6547 E-mail:01kikaku@city.miyazaki.miyazaki.jp

1

宮崎市　公共交通に関するアンケート調査票

1. あなたご自身についておたずねします。

あなたのご自身のことについてお答えください。（各項目ひとつに○ もしくは　記入）

(1) 性　別	1. 男性　2. 女性　3. 回答しない
(2) 年　齢	満 [　　] 歳
(3) 職　業	1. 会社員・公務員　2. 自営業　3. 学生 4. 専業主婦・主夫　5. パート・アルバイト　6. 無職 7. その他（　　）
(4) 家族構成	1. 独身　2. 夫婦・パートナー　3. 夫婦・パートナーと子ども 4. 3 世代家族　5. その他（　　）
(5) 家族人数	[　　] 人　※回答者本人含む人数
(6) お住まいの地区	1. 中央東　2. 中央西　3. 小戸　4. 大宮　5. 東大宮 6. 大淀　7. 大塚　8. 檍　9. 大塚台　10. 生目台 11. 小松台　12. 赤江　13. 本郷　14. 木花　15. 青島 16. 住吉　17. 生目　18. 北　19. 佐土原　20. 田野 21. 高岡　22. 清武
(7) 外出状況	1. 一人で外出可能　2. 付き添いがあれば外出可能 3. その他（　　）
(8) 自宅から最寄の鉄道駅・バス停までの徒歩時間	①最寄りの鉄道駅　駅名を記入（　　駅） 駅までの徒歩時間⇒（　　分） ②最寄りのバス停 バス停名を記入（　　） バス停までの徒歩時間⇒（　　分）
(9) 自動車運転免許	1. 免許あり（ イ.二輪・原付のみ　ロ.普通免許を含む各種 ） 2. 免許なし（ イ.返納した　ロ.取得していない　ハ.その他）
(10) 自動車利用状況	1. 自分所有の車を利用　2. 家族所有の車を利用 3. 家族の車で送迎してもらっている　4. カーシェアを利用 5. その他（　　）

◆65 歳以上で自動車運転免許をお持ちの方のみお答えください。

(11) 免許返納について	1. 返納する予定はない　もしくは　返納できない 理由（　　） 2. 5 年以内に返納したいと思っている

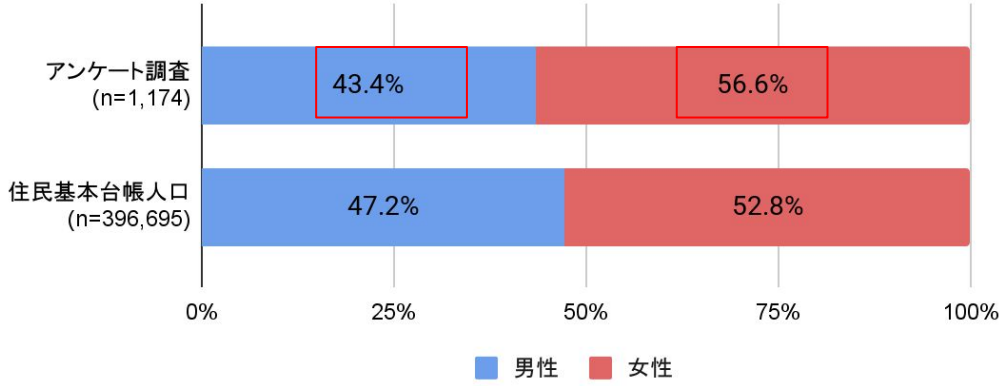
◆65 歳以上の方のみお答えください。（あてはまるものすべてに○）

(12) 路線バス優待パス	1.「敬老バスカ」を所有 2.「悠々パス」を所有 3.「シニアパス」を所有 4. いずれも所有していない	本市では宮崎市に引き続き 3 カ月以上住所を有する 70 歳以上の方を対象に「敬老バスカ」の発行を、また 65 歳以上 69 歳以下の方に「悠々パス(半年券)」の購入助成を行っております。※「シニアパス」は 65 歳以上の方を対象とした宮崎県の実施事業です。

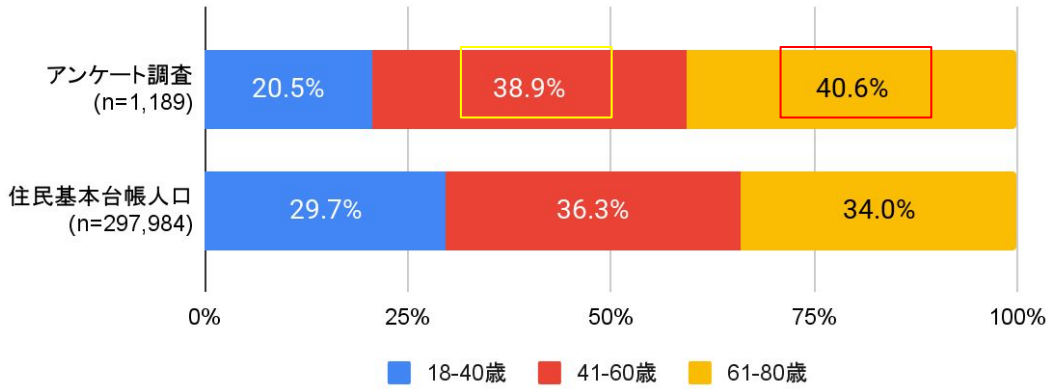
2

(4)サンプル特性

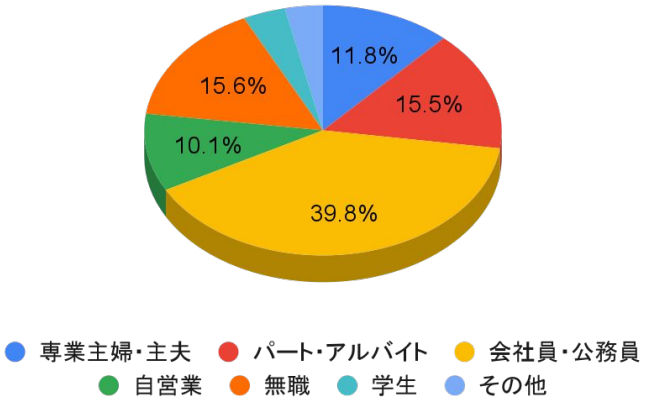
i：性別



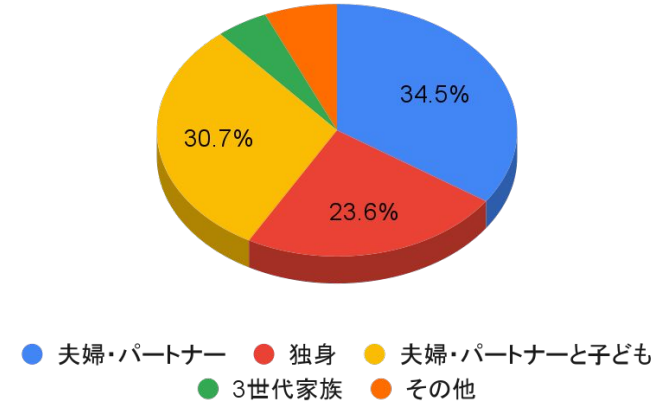
ii：年齢別



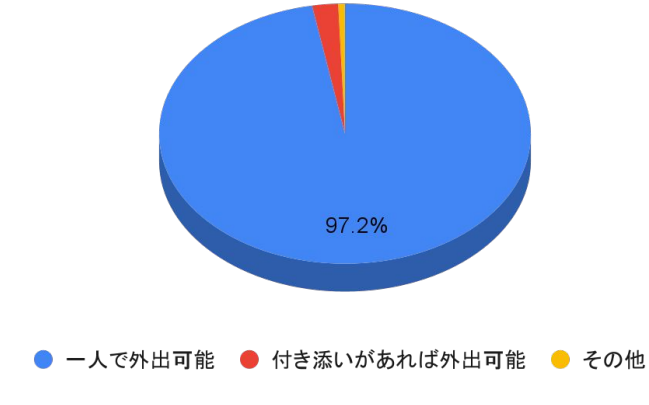
iii：職業



iv：家族構成



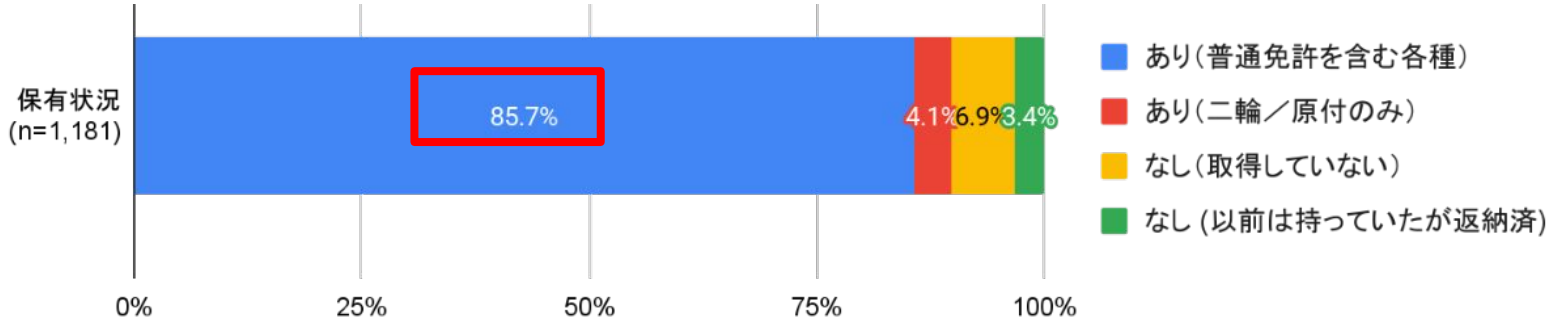
v：外出状況



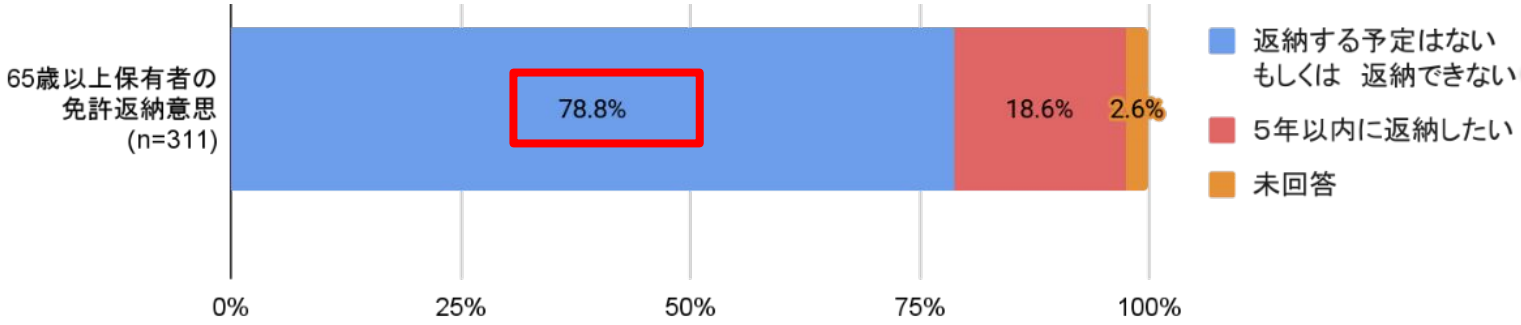
2. アンケート結果

(1)自動車等の利用状況について ※18歳以上のみ

ⅰ:自動車免許等保有状況　※全対象者



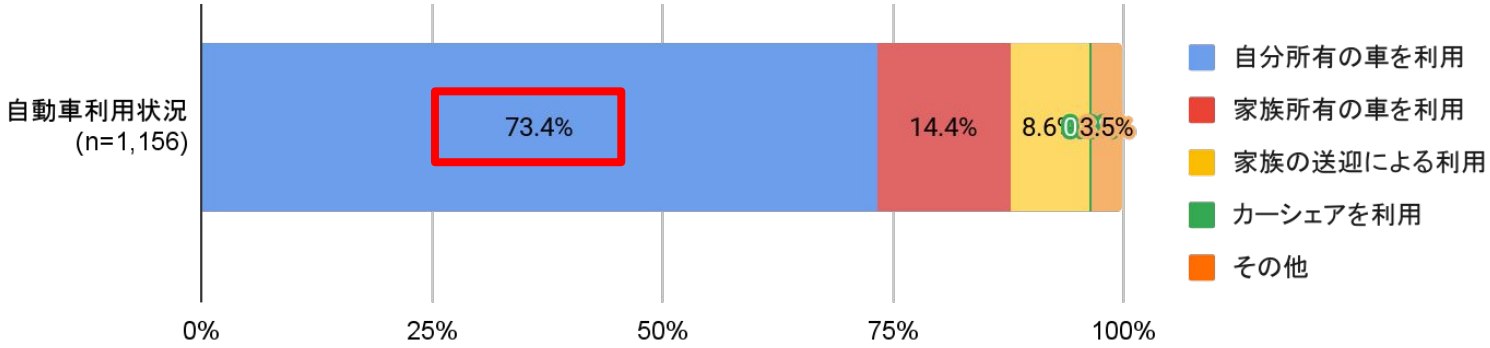
ⅱ:自動車免許等保有 者の免許返納意思　※65歳以上で免許所持者



○返納する予定はない もしくは 返納できない理由

「車が手放せない」という声が圧倒的です。日常生活や仕事に不可欠な利便性と必要性に加え、代替となる公共交通手段が不足しているため、返納によって移動が困難になることへの強い懸念が、返納を妨げる主な要因となっています。

ⅲ:自動車 利用状況　※全対象者



(2)普段の外出行動について

●「お住まいの地区」×「行先エリア」割合

設問2：日常生活における主な外出先 (上位3つ)を教えてください。※エリア

⚠地区によって回答者数が異なるため回答データに偏りが出ている場合があります。

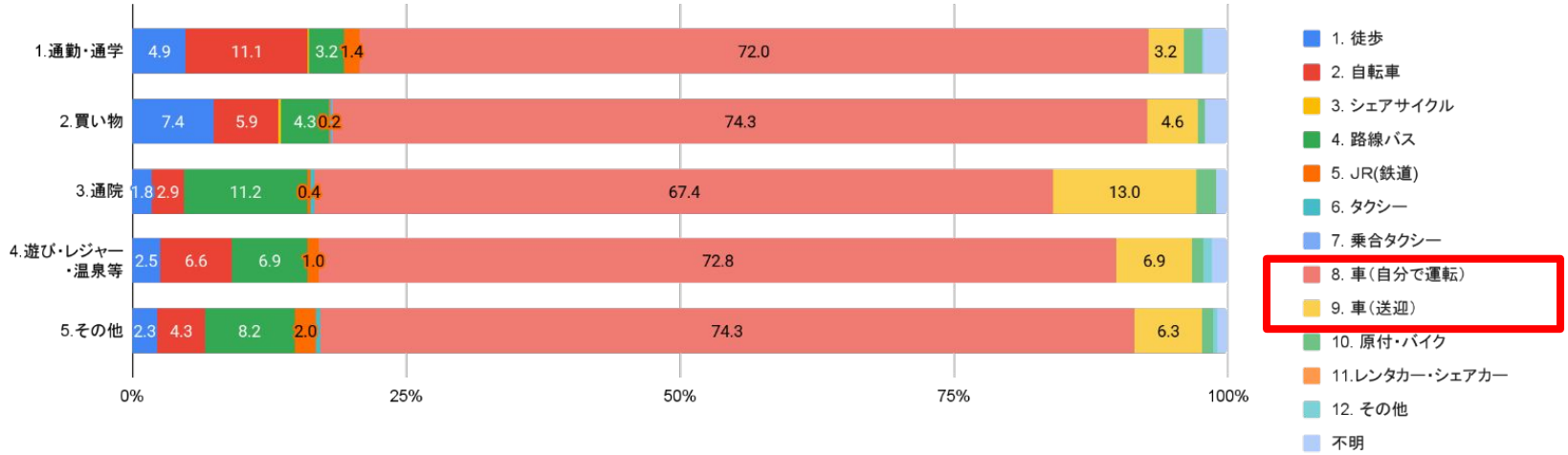
※単位：%

▼お住まいの地区 ▸行先エリア

	1. 中央東	2. 中央西	3. 小戸	4. 大宮	5. 東大宮	6. 大淀	7. 大塚	8. 樋	9. 大塚台	10. 生目台	11. 小松台	12. 赤江	13. 本郷	14. 木花	15. 青島	16. 住吉	17. 生目	18. 北	19. 佐土原	20. 田野	21. 高岡	22. 清武	23. 国富町	24. 綾町	25. 都城市	26. 日南市	27. 延岡市	28. その他
1. 中央東	48.3	5.9	1.6	1.2	1.2	3.1	1.2	10.6	0.6	0.3	0.9	2.5	1.6	0.3	1.6	2.5	0.9	0.3	0.9	0.6	0.6	1.9	0.6	0.6	1.6	0.9		7.5
2. 中央西	21.5	34.0	0.7	0.7	2.1	2.8	4.9	7.6			1.4		1.4	0.7	2.8	2.1		2.1	2.1		0.7	2.8	0.7	1.4	1.4		0.7	5.6
3. 小戸	22.6	12.9	3.2			12.9	9.7	6.5				3.2			3.2		6.5									3.2		16.1
4. 大宮	19.6	8.2	0.6	28.5	7	0.6	1.3	7.6		0.6		2.5	1.3	1.9		5.7	1.9	1.3	5.1			0.6	0.6		0.6		0.6	3.8
5. 東大宮	16.8	1.9	0.9	6.5	30.8	0.9	0.9	15.9				0.9		0.9	3.7	7.5			6.5	0.9	1.9	0.9	0.9					0.9
6. 大淀	17.3	8.4	0.9	1.9	1.4	29.9	7	4.7	0.5	0.5	1.4	3.7	1.9	1.9	2.3	0.9	1.4		0.5		0.5	5.1	0.5		2.3	0.9		4.2
7. 大塚	12.5	8.8	1.3	1.3	1.9	8.8	32.5	6.9	0.6	1.3	2.5	1.9	1.3	1.9	1.9	0.6	0.6	0.6	1.3		0.6	1.3	0.6	1.3	1.3	0.6	0.6	5.6
8. 樋	17.7	2.6	0.5	3.1	3.6	3.1		48.4	0.5	1.0	0.5	2.1	0.5		1.0	1.6			1.6		0.5	1.0		0.5	2.1	1.0	0.5	6.3
9. 大塚台	6.7	8.9				2.2	33.3	2.2	8.9	6.7	2.2						2.2		4.4		2.2	2.2	2.2					15.6
10. 生目台	21.6	13.7	3.9	2.0		5.9	17.6	7.8	2.0	5.9	3.9	2					3.9						2.0	2.0		3.9		2.0
11. 小松台	13.7	1.4	1.4	2.7	2.7	1.4	26.0	8.2	4.1		11.0	2.7	1.4				1.4				1.4	5.5	1.4		2.7			11.0
12. 赤江	11.2	1.9		0.6	0.6	9.9		5.6		0.6	0.6	33.5	4.3	1.9	1.2	0.6	0.6		1.9	0.6	1.2	8.1	0.6		1.2	1.2	0.6	11.2
13. 本郷	11.9	3.4	0.6	1.1	0.6	11.9	1.7	4.5		0.6		16.4	14.7	5.1	3.4		0.6				1.1	10.2	0.6		2.3	4.0	0.6	5.1
14. 木花	15.5	2.8	1.4	2.8		2.8	2.8	2.8				4.2	7	32.4	2.8		1.4	1.4			1.4	9.9			4.2	2.8		1.4
15. 青島	11.1	5.6		5.6	5.6	22.2						5.6	5.6	5.6	5.6							5.6		5.6	5.6	5.6		5.6
16. 住吉	7.6	5.3		4.6	4.6	1.5	0.8	9.9				1.5			0.8	31.3	2.3	3.1	9.2			0.8	0.8		1.5	0.8	0.8	13
17. 生目	10.8	8.4		2.4		7.2	8.4	6.0	2.4	1.2	2.4	1.2	1.2		1.2	2.4	16.9	2.4	4.8	1.2	2.4	6.0	2.4		3.6	2.4	1.2	1.2
18. 北	4.8	4.8		7.1		4.8	9.5	4.8	4.8	2.4	2.4				2.4		2.4	26.2	2.4				9.5			4.8		7.1
19. 佐土原	8.3	3.4		1.0	0.5	1.5	1.5	8.8	0.5		0.5	1.5	0.5	1.5	0.5	6.9	0.5	1.5	42.2		0.5	0.5		0.5	0.5	1.0	0.5	15.7
20. 田野	5.3	5.3	2.7		1.3	4.0	1.3						2.7	1.3	1.3			1.3		38.7		18.7			9.3			6.7
21. 高岡	5.7	5.7		1.4			20.0	7.1	8.6		2.9	2.9	1.4		1.4	1.4	1.4				18.6	4.3	11.4	1.4	1.4			2.9
22. 清武	5.0	5.0	0.5	0.5	0.5	9.0	1.5	5.0	0.5	0.5	0.5	2	3.5	3.0	2.0		0.5	1.0	1.0	0.5		48.2	0.5		2.5	1.5	0.5	4.5

●「目的別」×「移動手段」割合

◉全ての目的において「車（自分で運転）」が約7割を占めています。

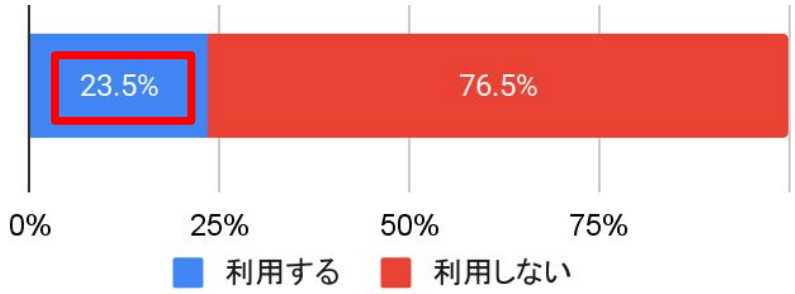


●「年代別」×「移動手段」割合

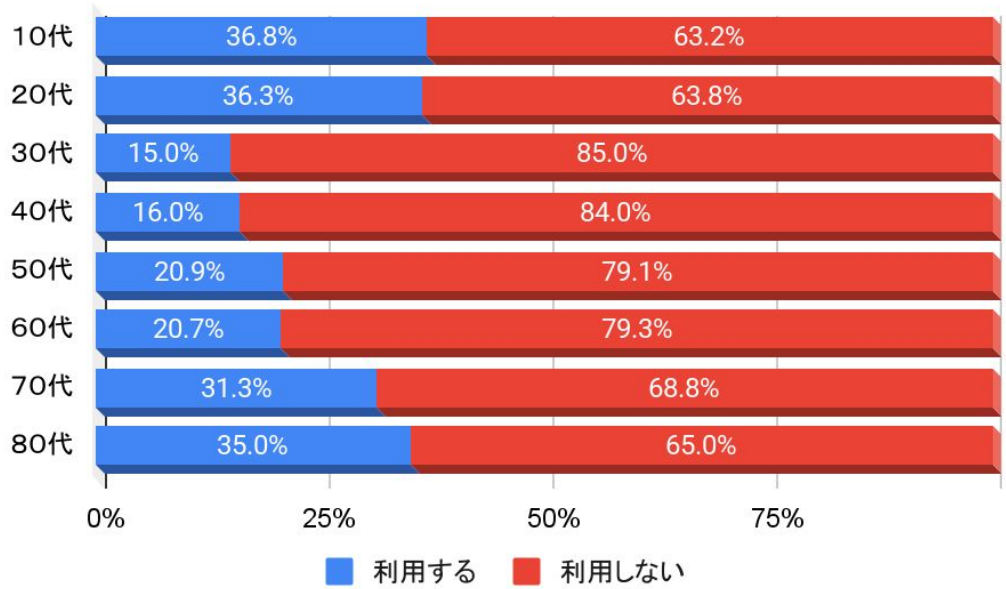
◉10代は、「自転車」が最も多く、次いで「車（送迎）」が中心です。また、路線バスやJRといった公共交通の利用も、他の年代に比べて活発です。20代になると「車（自分で運転）」が半数を超え、30代から60代にかけては、自家用車での移動が約8割を占める主要な手段となります。70代以降はご自身で運転する割合が減り、代わりに「車（送迎）」や「路線バス」、徒歩での移動が増える傾向にあります。

(3)路線バスの利用状況について

●普段、路線バスを利用しますか　(n=1,194)

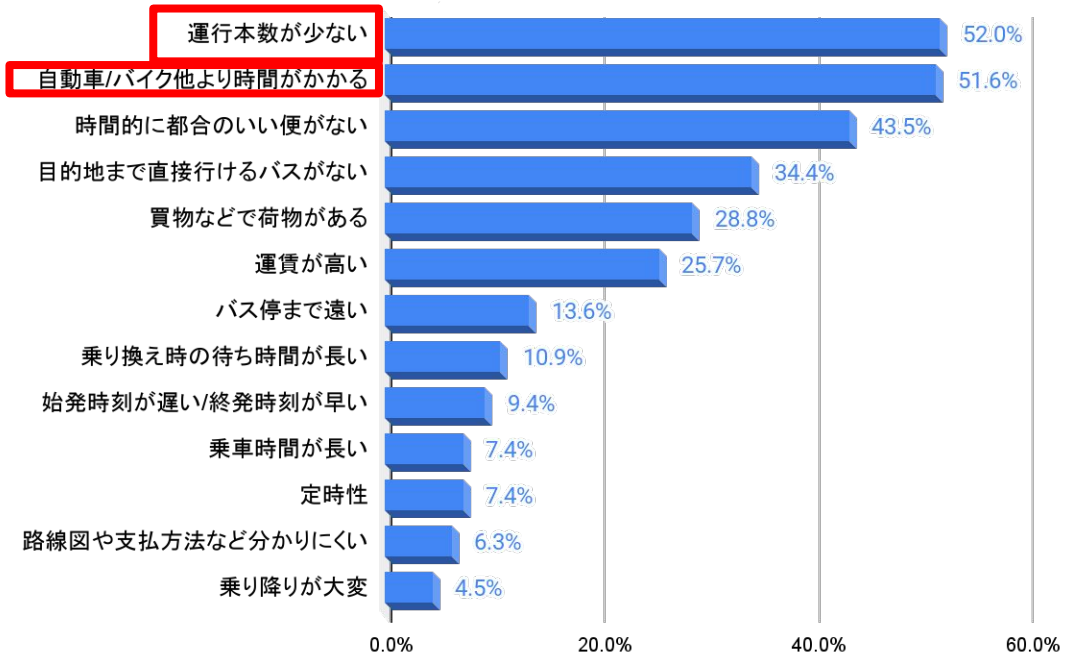


●年代別：路線バス利用状況　(n=1,194)



◉年代別の利用状況を見ると、10代・20代の若年層と70代・80代の高齢層で利用率が3割を超える一方、30代から60代の現役世代では15～20%台と低くなっています。

●普段、路線バスを利用しない人の利用しない理由　(n=448)複数回答可



◉バスを利用しない理由として最も多く挙げられたのは「運行本数が少ない」で、半数以上の方が指摘しています。僅差で「自動車やバイク他より時間がかかる」、次いで「時間的に都合のいい便がない」が続いており、運行頻度や所要時間といった、時間や利便性に関する課題が上位を占めています。

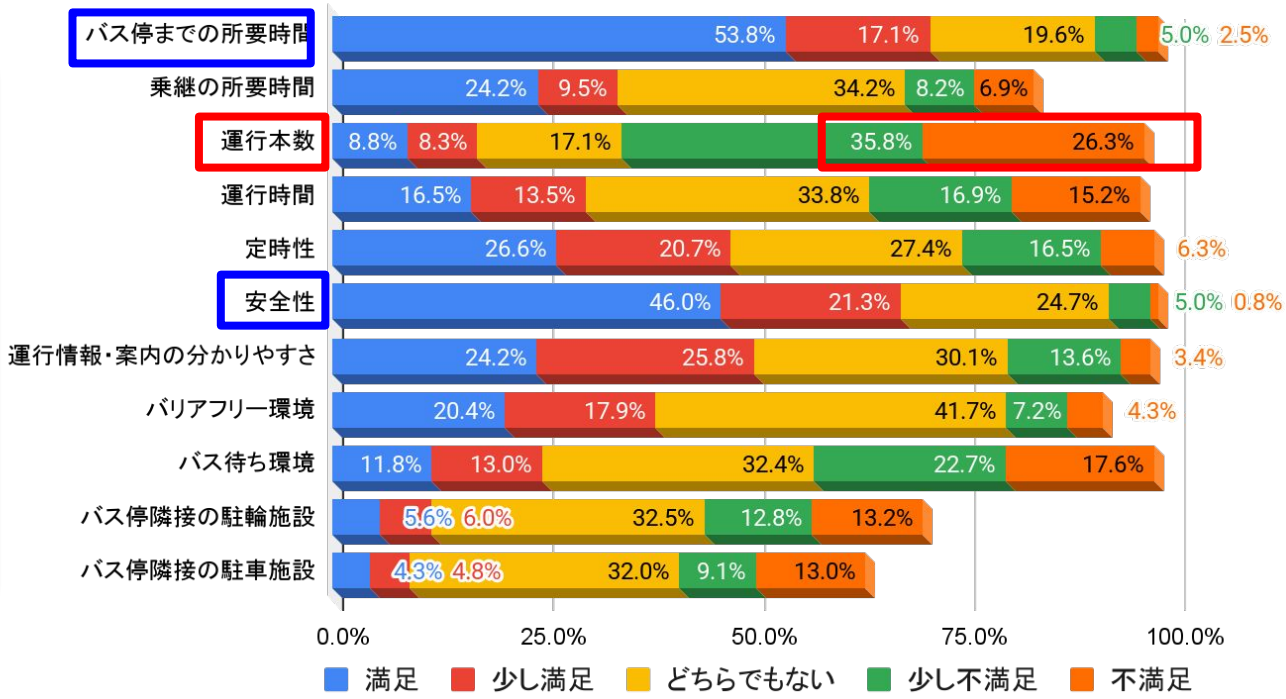
●普段、路線バス を利用する人の利用する理由　(n=279)複数回答可

◉バスを利用する理由として最も多く挙げられたのは「自宅等の出発地や目的地が（バス停に）近い」で、バス停へのアクセスの良さが重要な利用動機となっています。次いで「交通費が安い」と「飲酒しても利用できる」がほぼ同数で続いており、経済的なメリットや、飲酒時の移動手段としてのバスの役割が大きいことがうかがえます。

理由	回答数
自宅等の出発地や目的地が近い	123
交通費が安い	113
飲酒しても利用できる	111
他の移動手段より便利	75
他に移動手段が無い	68
事故の心配が少ない・自分の運転が不安	58
時間どおりに行ける	50
目的地付近に駐車場が無い	33
健康に良い	19
環境に良い	16
その他	14

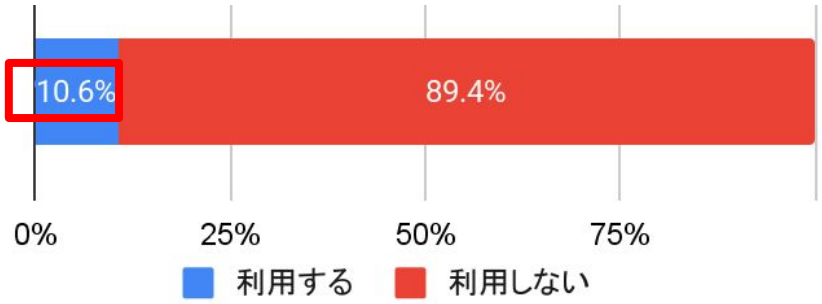
●路線バスを利用する人の満足度　(n=281)複数回答可 ※わからないを除く

◉「バス停までの所要時間」や「安全性」、「運行情報・案内のわかりやすさ」の満足度が高い一方で、「運行本数」については、不満足・少し不満足の合計が62.1%にのぼり、満足度が著しく低い状況です。このほか、「バス待ち環境」や「バリアフリー環境」、「バス停隣接の駐輪・駐車施設」といった設備面に関しても、不満を感じている利用者が多いことがうかがえます。



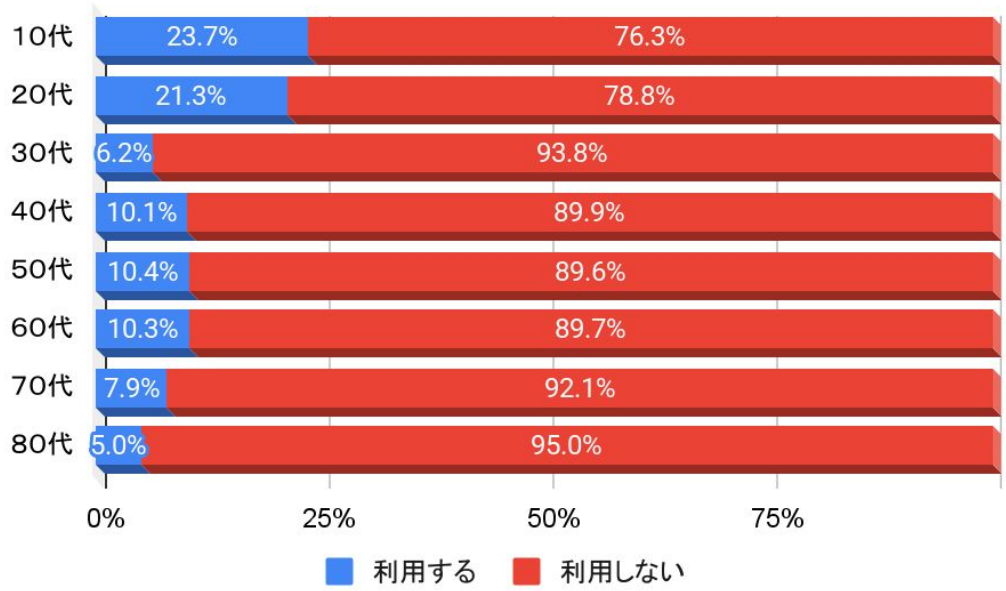
(4)鉄道の利用状況について

●普段、鉄道を利用しますか　(n=1,194)



年代別の利用状況を見ると、10代・20代の若年層では利用率が2割を超えていますが、30代で急激に低下し、以降の世代では1割前後もしくはそれを下回る水準で推移しています。利用が特定の若年層に集中している傾向が明確に表れています。

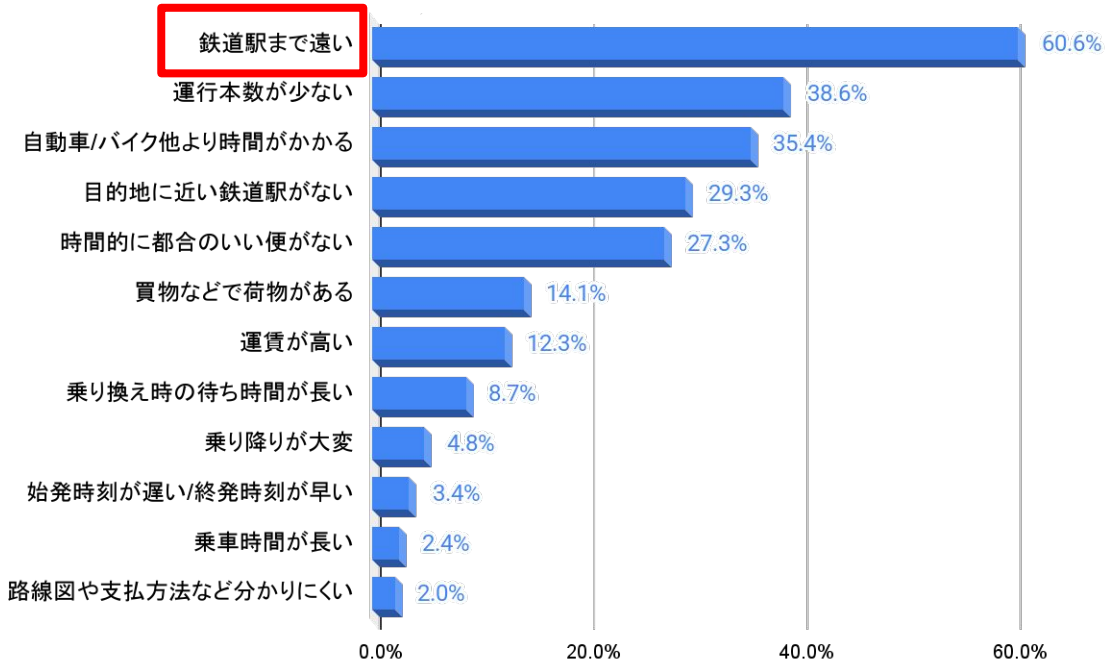
●年代別：鉄道利用状況　(n=1,194)



●普段、鉄道を利用しない人の利用しない理由　(n=505)複数回答可

◉鉄道を利用しない理由として最も多く挙げられたのは「鉄道駅まで遠い」(60.6%)で、6割を超える方が駅へのアクセスの悪さを指摘しています。利用の前提となる駅までの物理的な距離が、最大の障壁となっていることがうかがえます。

◉他には、運行頻度や所要時間、路線網など、利便性に関する項目が上位を占めています。



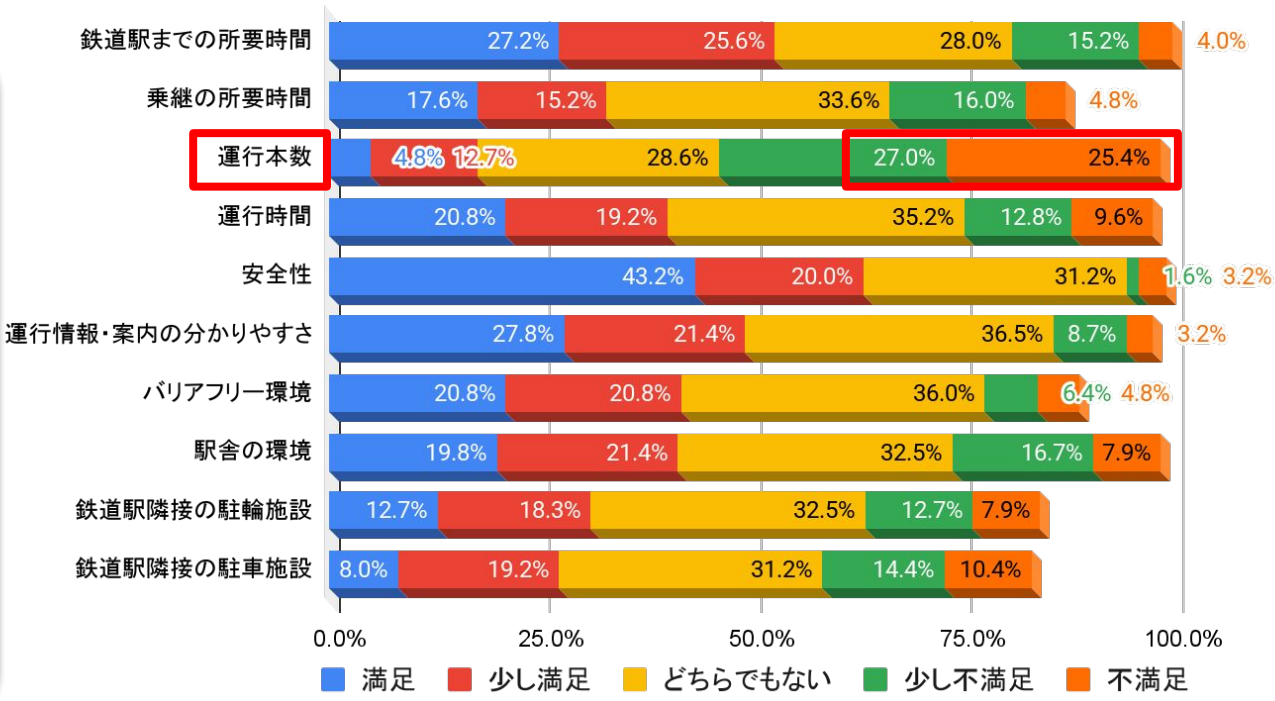
ⅳ：普段、鉄道を利用する人の　利用する理由　(n=680)複数回答可

◉鉄道を利用する理由として最も多く挙げられたのは「時間通りに行ける」、次いで「早く行ける」でした。鉄道の持つ定時性や速達性といった、時間に関する正確さや効率性が、利用者にとって最大の魅力となっていることが分かります。続いて「交通費が安い」や「飲酒しても利用できる」といった理由も多く、経済的なメリットや飲酒時の移動手段としての役割も大きいことがうかがえます。

鉄道を利用する理由	回答数
時間通りに行ける	63
早く行ける	57
交通費が安い	43
飲酒しても利用できる	41
自宅等から鉄道駅まで近い	37
他の移動手段より便利	33
事故の心配が少ない・自分の運転が不安	32
他に移動手段が無い	19
健康に良い	9
環境に良い	9
その他	6

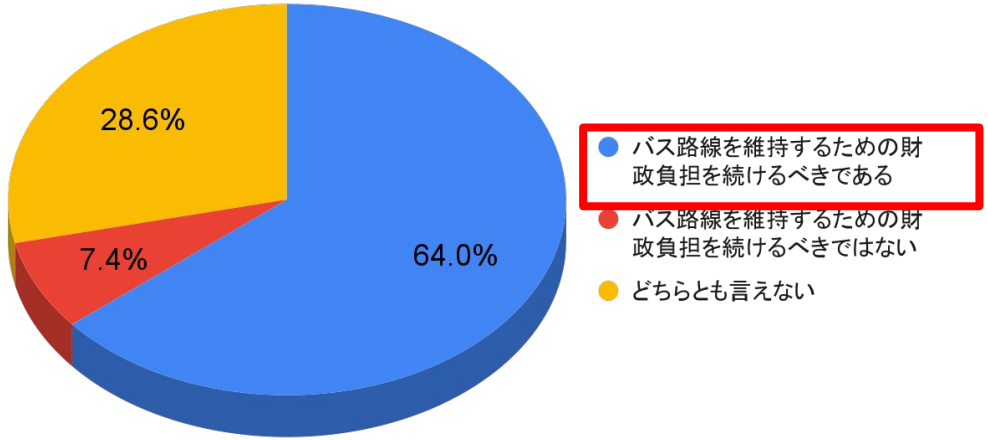
ⅴ：鉄道を利用する人の満足度　(n=281)複数回答可 ※わからないを除く

◉「安全性」や「鉄道駅までの所要時間」、「運行情報・案内の分かりやすさ」の満足度が高い一方で、「運行本数」に関しては、不満足・少し不満足を合わせた否定的な回答が52.4%と半数を超えており、満足度が著しく低いという結果が明確に表れています。駅舎の環境やバリアフリー、駐輪・駐車施設などの設備関連については、「どちらでもない」と回答した利用者が多いものの、不満よりも満足の声が上回る傾向にあります。

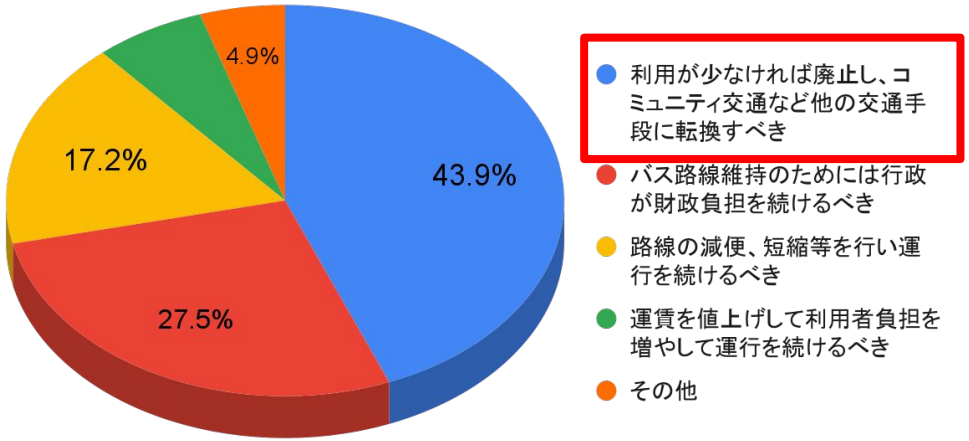


(5)公共交通に対する意識について

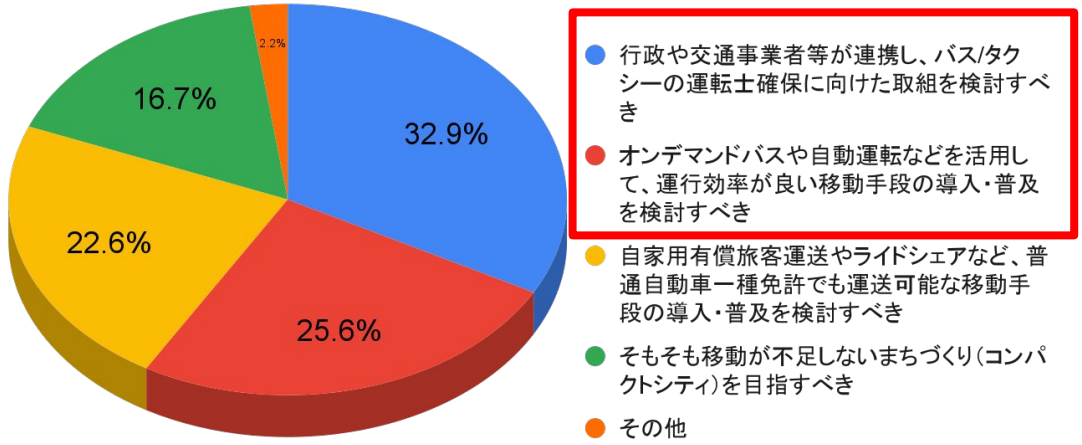
●バス路線を維持するために、市が財政負担をすることについてどう思うか　(n=1,144)



●乗客の少ない路線や便の今後の維持について　(n=1,148)



●バスやタクシーの運転士が不足していることについて　(n=1,123)複数回答可

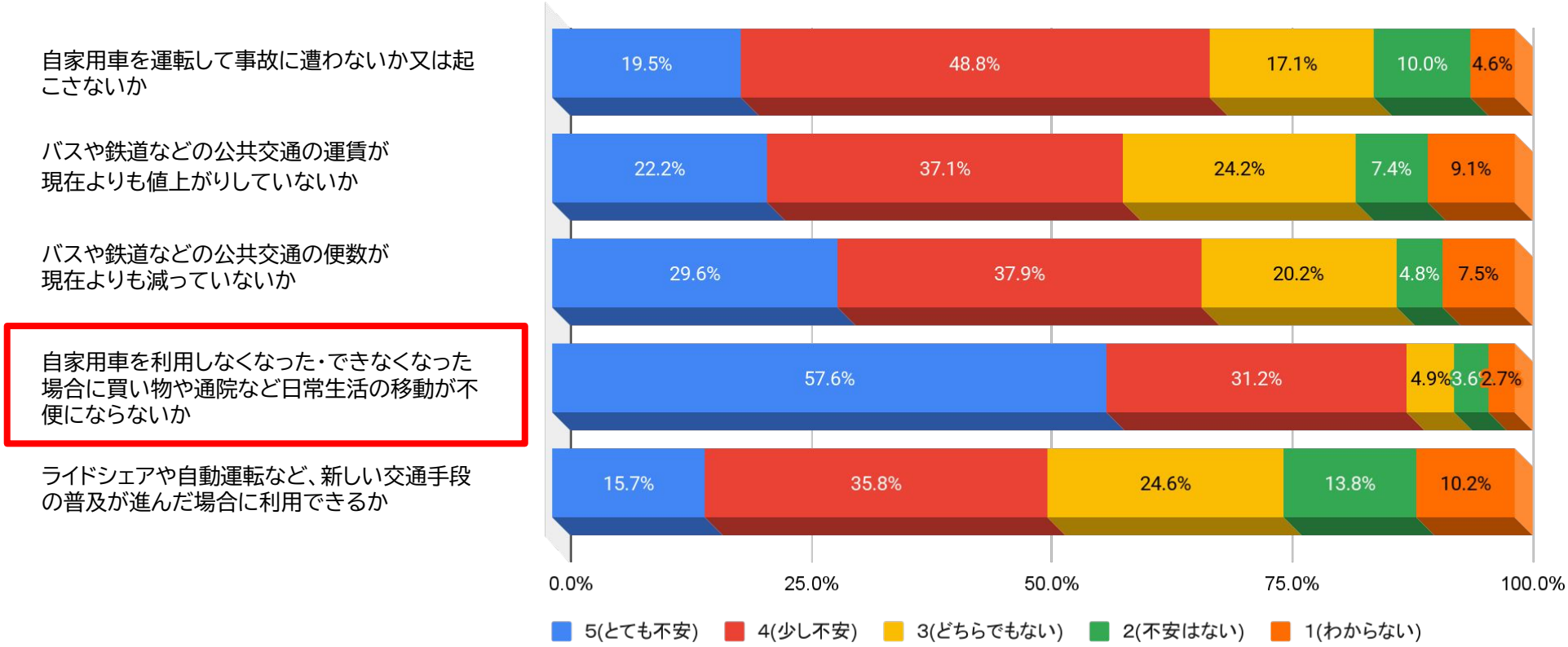


●将来の移動手段についての不安度　(n=1,159)

最も高い不安が示されたのは「自家用車を利用できなくなった場合の日常生活の移動」で、約9割が不便になることへの懸念を表明しています。これは、市民生活における自家用車への高い依存度を反映した結果と考えられます。

次いで、「公共交通の便数が減ること」と「運転による事故」も、それぞれ約7割が不安と回答しており、公共交通のサービス水準維持と交通安全が、市民にとって重要な関心事であることがうかがえます。

加えて、「運賃の値上げ」や、ライドシェア等の「新しい交通手段への適応」についても半数以上が不安を感じており、将来の移動全般に対する多様な懸念が見て取れます。



（６）宮崎市内の公共交通についての意見・要望（自由記述）※生成AIによる要約を含む

利用者の視点から見た現状とご意見

- **運行頻度・時間帯について** ―「乗りたい時に乗れない」という実感
  - 最も多く寄せられたのが運行本数に関するご意見です。特に、日中の時間帯に便数が少なくなることや、会食やイベント参加後を想定した夜間帯の最終便が早いことについて、改善を望む声が聞かれました。
- **路線網・アクセスについて** ―「行きたい場所へ、スムーズにたどり着きたい」
  - ご自宅から最寄りの駅やバス停まで距離があることや、目的地まで直接行けず乗り換えや遠回りが必要になるなど、アクセスの利便性に関するご意見をいただきました。交通の結節点として宮崎駅のハブ機能をさらに強化してほしいとの声も挙がっています。

サービス改善に向けた具体的なご提案

- **車両の最適化** ―「ライトサイジング（小型化）」による効率的な運行
  - 乗客数に応じて車両サイズを最適化するご提案が多く見られました。利用者の少ない路線・時間帯は小型バスで運行することで、コストを抑え、その分を運行頻度の維持・向上に繋げることを期待する声です。
- **情報提供と利用促進** ―「分かりやすさ」で利用のきっかけを
  - スマートフォン等でバスの現在地がリアルタイムで分かるシステムや、初めての方でも迷わないウェブサイト・アプリを望む声がありました。また、イベント開催など、積極的な情報発信による利用促進への期待も寄せられています。

持続可能な交通体系の実現に向けた視点

- **新たな交通モードの導入** ― 地域特性に応じた柔軟な対応
  - 幹線交通を補完するため、地域の実情に合わせたコミュニティバスや、 AI等を活用したオンデマンド交通といった、より柔軟な交通手段の導入に高い期待が寄せられています。
- **まちづくりとの一体的な計画** ― コンパクトシティの実現に向けて
  - 人口減少社会を見据え、居住エリアや都市機能を集約する「コンパクトシティ」を目指し、公共交通機関の再編を検討すべき、とのご意見が寄せられました。公共交通の路線沿線に居住を誘導するなど、まちづくりと連携することで、持続可能な交通体系を構築できるのでは、という提案です。